

2015年度 日本気象学会東北支部臨時理事会 議事録

日時：2015年9月8日（火）15時00分～18時15分

場所：仙台管区気象台第3会議室（3階）

出席：長谷川、青木、岩崎、佐伯、境田、野村、渡辺、和田（代理出席）（以上理事）、白川（会計監査）、山崎、斎藤、廣川（以上幹事）

欠席：杉山理事、児玉理事、名越理事、岩尾理事

司会：渡辺理事

支部長挨拶：長谷川支部長より理事会開催の挨拶

議題1. 気象学会秋季大会のあり方に関する検討

1) 運営形態

- ・2018年10月29日（月）～11月1日（木）の期間に仙台国際センターで開催する
- ・「4日4会場」が最適だが、前日（10月28日）まで同センターを使用する他の学会の都合によっては「3日5会場」での開催も選択できるようにする
→キャンセル料金が発生しないのは開催日の1年半前（2017年2月末）までで、その期限までに運営形態を確定する必要がある

その他、以下の意見があげられた

- ・3日5会場のデメリットは、別会場のセッションを掛け持ち聴講するのが困難になる上、費用が他の形態とさほど変わらないこと。
- ・5番目の会場として想定している東北大学の萩ホールは必ずしも経費が安くない（山崎幹事）。
- ・複数会場を設定する案もあったが、天気が悪いと参加者が不便を感じる。また人手が掛かるので運営負荷も大きい（岩崎理事）。
- ・【開催時期】仙台とはいえ、雪による影響が心配なので10月開催が望ましい（岩崎理事）。
- ・仙台国際センターの料金設定がこれまでと変わっている。以前は押さえていても不使用の会場は半額だった。現状であれば、使わない時間を手放すことはできないのか。
- ・予約の取り消しは1年半前までであれば違約金は発生しない。
- ・前日使用学会のスケジュールはいつ分かるのか。それが分からないと運営が決まらない。
→早めに確認するのが良い、前年秋の大会告示までには決まっていないと困る。
←前日使用学会が決断するメリットを把握しておくが良い（長谷川支部長）。
- ・前回（2013年）のときも、前日準備できない部屋もあった。主要な部屋で準備できればよい（山崎幹事）。

2) 大会参加費

- ・参加費と会費のバランス、会員のメリットを考えて設定すべきで、受益者負担の原

則で参加費を上げる方向が適当（山崎幹事）。

- ・ 会場費の見積もり段階で本部試算の基本が崩れている。
 - ・ 非会員参加費を増額しても賄えるとは考えられない。
 - ・ 会員になることのメリットを出すためにも、参加費に会員・非会員の区別をつけるべき。ただし大会当日の会員チェックは大変。当日支払いの料金は同じ設定か。受付外注化の想定もあるので、その際は名簿を渡せばよいということになるか。
 - ・ 学会経費全体で収支を考えており、他地区を含めると収支がどうかは定かでない。
 - ・ 参加費はそう簡単には変えられない（岩崎理事）。
 - ・ 本部は経費を安くするよう各支部に通達しないと大会運営の根幹が崩れてしまう（青木理事）。
←本部も相場観をつかんで、考えてくれるはず。何らかの縛りは必要だろう（長谷川支部長）。
- 3) 講演資格
- ・ 基本方針にあるスペシャルセッションは適用除外というところを、依頼講演のみ非会員でも可とするという方策もあると考える（山崎幹事）。
- 4) 大会運営の外注項目
- ・ 本部に提出する試算は、高い方・低い方のどちらを出すか。
 - ・ 資料は受付業務にしぼったが、ほかの項目の見積もりも参考になる。
 - ・ 懇親会は丸投げだが、絶対に黒字でないとならないという命題がある。
←以前、収支は黒字だったが料理が少なかったと全国から批判を受けたことがあった。
 - ・ 全国で共通するような業務は、地方が担わない方がよい（山崎幹事）。
 - ・ 他の支部と連携して東北支部の要望を挙げるようにする（長谷川支部長）。
- 5) その他
- ・ 朝令暮改とならないよう、仕組みは十分考えるべき（岩崎理事）。

議題2. 大会に関する中期的な検討課題

- 1) 会員制度に関する検討（会費、会員区分、優遇措置等）
- ・ 会員は多いほど良いのか。学会員でいられることのステータスを大事にしてはどうか（長谷川支部長）。
 - ・ 気象学会で気象予報士のための CPD 制度やそのポイントを得られる仕組みを用意すれば、気象予報士の会員増につながるのでは（佐伯理事）。
 - ・ 秋季大会は平日開催のため一般の社会人の参加は難しく、学生時代に気象に興味があった会員も就職すると退会してしまう傾向がある（青木理事）。
 - ・ 最新の天気や気象集誌の閲覧制限期間（現在は約2ヶ月）を会員・非会員でより差別化しては。
 - ・ 天気や気象集誌等の機関紙の掲載内容をより魅力的なものにすることが、会員増につながると思われる（長谷川支部長）。
- 2) 支部事務局体制（外注化、気象機関以外の組織の関与等）
- ・ 外注も含めて、事務局の負担をできるだけ減らしていくことが重要。

- ・事務局業務を任される負担の懸念が、气象台職員の会員数減につながっている可能性があるのでは。
 - ・气象台以外の第2の事務局の受け皿としては、大学があげられる。
- 3) 秋季大会のあり方(年2回大会開催の是非等、より中期的な観点)
- ・地方で開催することはアウトリーチの観点から重要。
 - ・ただしアウトリーチを考慮すると、従来の平日開催ではなく土日を含んだ開催とする必要があるのではないか。
 - ・シンポジウムの意義についても検討する必要がある。
- 4) 春季・秋季大会の開催時期等

議題3. 2015年度8月までの事業報告及び会計報告

- ・青木理事より東北支部だより第81号の発行報告があった。
- ・廣川幹事より2015年8月までの会計報告があった。

議題4. 2015年度9月以降の事業に関する進捗状況

1) 東北支部気象講演会

予約の関係上、会場確保は10月以降になる見込みであり、以下の案での開催を予定している。气象台からも、大雪または寒波に関するテーマで講演できる講演者の選定をお願いしたい。

日 時：2月13日・14日・20日・21日のいずれか

会 場：仙台市宮城野区文化センターまたは太白区文化センター

テーマ：北極の寒気と日本の寒波(仮題)

講演者：岩崎理事と气象台関係者

その他次のような意見等が出された。

- ・気象講演会の各県持ち回り開催については、今後、メールによりやりとりを行う(補足：4月の第1回理事会において提案された事項であったが、これまで議論はされていない)。

2) 支部気象研究会

- ・今年度は仙台管区气象台との共催で、12月7日(月)10:30~17:00(懇親会18:30~)の日程で開催することが了承された。学会員と气象台職員が交流して発表・討論ができる合同発表会の形式とする。発表時間は15分(発表12分、質疑3分)を基本とするが、件数に応じて柔軟に対処する。

3) 支部だより

- ・第82号を2016年1月頃に発行予定。掲載内容は議案参照。

4) 支部理事会

- ・議案のとおり。

5) 支部強化基金による活動

- ・議案のとおり。
- ・進行の大江気象予報士が出演している番組内で、当イベントについて宣伝できる

かもしれない（佐伯理事）。

- 6) 日本気象学会奨励賞などへの応募
・議案のとおり。

議題5. その他

議案のとおり。

以上